



ハシゴン桜



2021.4.30 (金) No.7 編集責任者 橋山直記

ノートのとり方～その心得～

早いもので今年がスタートして、1ヶ月が過ぎようとしている。新しい学年での勉強にはもう慣れたであろうか？当然のことだが、学習内容は昨年より難しくなる。「去年もわからなかったのに～」となげく人もいるだろうが、それはさけて通れない道。そこで今回は、ノートの心得について紹介する。ちなみに、以前も確認したが、この通信でいろいろな学習方法を紹介するが、人によって『あう』『あわない』があるだろう。しかし、『あう』か『あわない』かはやってみなくちゃ判断できない。やってみて、今後の学習方法に役立ててもらえれば幸いであ～る。では、本題に入ろう。

まず、授業中のノートのとり方は難しい。先生が黒板に書いたことを丸写しして、



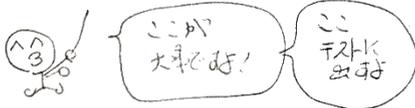
と、大きなかんちがいをする人もいる。

では、なぜノートをとるのか！？君たちは何のためにノートをとっているのか！？それは・・・、**忘れる！**からである。

ノートもとらずにその授業を全て覚えられるのはスーパー天才くんか天才バカボンのハジメちゃんくらいだろう。(みんなは知らないかもね、おうちの人にきいてみよう)

ふつうは覚えたことも数時間くらいで半分忘れ、数日でほぼ忘れるのである。(興味あること好きなことは忘れにくいけど勉強が「だ～い好き」という人はあまりいないだろうね)つまり勉強したことは覚えていても何を勉強したか忘れてる。**無意味**ということになる。それを思い出せるようにノートにとるのである。

話をもどそう。では、どのようにノートをとればいいのか！？このノートのとり方に、授業に集中できる要素がある。何でもかんでも写して、どこが大事かわからないノート。そうではなく、



など先生の言葉に注意し、とにかく目立つように(色ペン使ったり、大きく書いたり)するのである。そして何より『面倒だ！』という気持ちをなくすことだ。あとでそのノートさえみればテスト勉強ができるオリ

ジナル教科書を作るような気持ちでノートをとってみよう。とにかく、今までやっていたことで満足せず、この1年間にいろいろ工夫して、来年には自分独自の勉強法を作っちゃおう！そうすれば、高校に入学しても、社会人になってもしっかりと学べる学び方が身についているから、自分で学習していくことができるからね。これからも通信でいろいろな勉強法を紹介するので、参考にしなね。

新聞記事より

素直な思いで「はい」と返事
(福岡県70歳)
私が大切にしている言葉がある。「はい」と「いいえ」だ。小学生のころは素直に言えた。中学生になると、自分の意志どおり言うのが難しくなった。社会人になって、逆の意味で使っていることを多く感じた。福岡市郊外に住んでいたころ、地域の少年ソフトボールの監督を十数年していた。子どもたちは、なかなか「はい」と返事をしない。そこで「はい」と大きな声で返事するよう指導した。

ある日、一人のお母さんから電話があった。「今日、子どもにお使いを頼んだら、はいと返事して行きました。夫に話したら監督さんが『はい』と返事させているからだろうというのです。ありがとうございました」と涙声である。

子どもは、はずみで「はい」と言ったのだらう。そして気持ちよかったですに違いない。美しい言葉は優しい心をはぐくむのだから。

年を重ねた今、自分の心に忠実に「はい」「いいえ」を使うことを心掛けていく。

ハシゴン桜は、学力向上通信である。学力向上を目指し、定期的に発行させていただいている。しかし、どんなに学習方法を紹介して取り入れても、人間の内面(内なる心)の持ち方によりその効果はそれぞれだと考える。学習の継続、向上をするためには、人の心の持ち方も大切であると考え。よって、私が感動したことや、気づかされたことなども今後紹介させてもらおうので、よろしくである(≧▽≦)